

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>ナノデス・アキュライズX</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.464</b>	△RG <b>0.050</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：アキュライズX**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  4 インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤 番

**比較対照ボール：アキュライズIX**

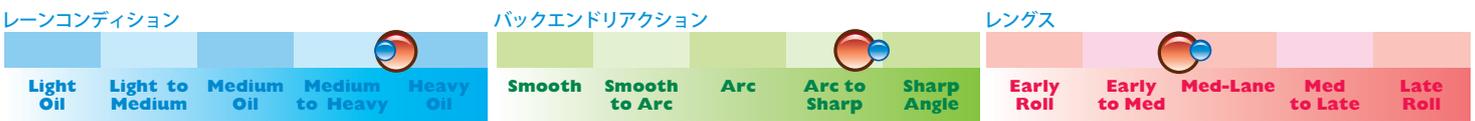
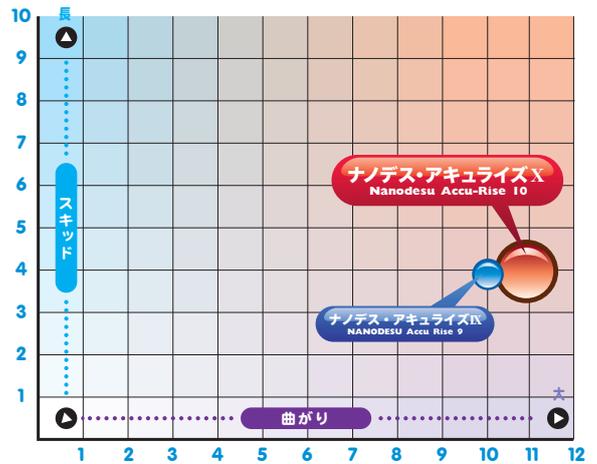
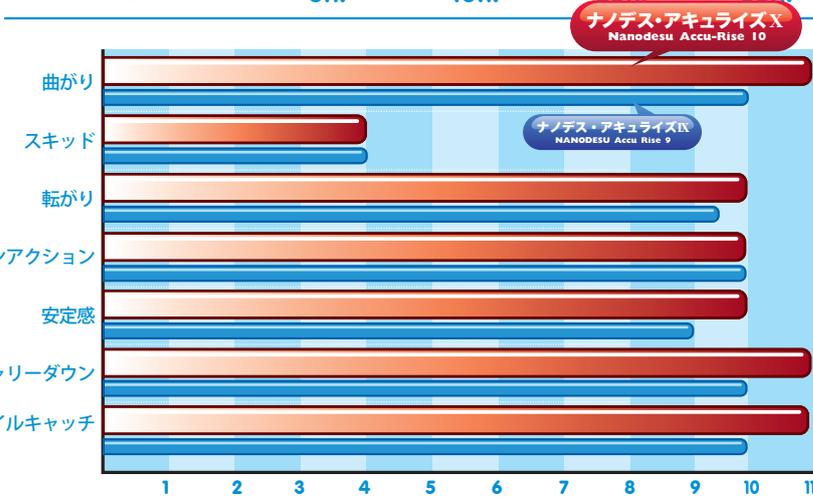
フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  4 インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤 番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

NANODESUシリーズにはブランド毎にコンセプトがあり、アキュライズシリーズは「先の動き」、グラスプは「キャッチ」。ツアープレミアムシリーズは同コアでカバーストック変えて、あらゆる性能を見出す取り組みになっています。そんなアキュライズシリーズも10で最終章になり、それを飾るスペックは新開発コアとNano-Thane 2.0 Pearl (LEVEL 2)との組み合わせで、開発コンセプト通りに「先の動き」に着目した、ナノデスらしい安定感の中で先の動きにメリハリの利いたリアクションを感じて頂けるでしょう。このアキュライズ10はコアが先に出来上がり、様々な強さと素材でテストングを行ってきました。新開発のコアを活かすためには直進力とキャッチ力のバランスを考慮しながらコアの数値までの修正が必要です。国産のボールは納得するまで何回も作り直し、吟味に吟味を重ねますので、「信頼と実績」という名称を頂ける理由はその取り組みにあるのかもしれない。そして納得いくまで何度も様々なカバーでテストを行った結果、走りとキャッチのバランスが整うNano-Thane 2.0 Pearl (LEVEL 2)との組み合わせをチョイスして、先の動きがダイナミックに感じられるスペックに仕上げました。新しいコアは慣性を低くして手前からの転がり感を強く出しながら、最大限に△RGを上げたことで奥のネジレ感も出る仕様です。私のイメージではNano-Thane 2.0 Pearl (LEVEL 2)ぐらいが一番純粋にコアの性能を感じることができます。走り過ぎず、掴み過ぎないのでコアの動きも見えますし、他のコアとの比較もしやすいからです。いつもナノデスを投げて思うことですが、本当にピンキャリアは一級品だと思います。ある意味ナノデスばかり投げ過ぎると他のボールの飛びが辛く感じるぐらいで、ピンキャリアはナノデスの生命線ともいえると思います。

### 特記事項

**アキュライズ最終章はBLACKで、安定したキャッチと共にバックエンドの強さを強調できる新型のコアを搭載しました。最終章ならではのダイナミックな動きをぜひお試しください。**